

2025
8

教 区 だ よ り

真宗大谷派京都教区教化広報誌

第2回連載

「女性教化」の近・現代史を紐解く

—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

特集

部落差別問題に学ぶ同朋協議会
公開現地研修会

特集

親鸞ウォーク 2025

特集

本の紹介コーナー

今、この時に、親鸞聖人に会う

小松大聖等
教区 第1組 但馬 末利花 氏



「女性教化」の近・現代史を紐解く

―真宗大谷派の場合―

福島 栄寿

大谷大学文学部歴史学科教授



第2回

真宗の「女性教化」に関心を抱いた経緯（その二）

「自己」とは他なし、絶対無限の妙用に乗托して……」。

この言葉は、清沢満之（一八六三～一九〇三）の言葉です。ご存じのように、清沢は教団革新運動の後、東京巢鴨に創設される真宗大学の初代学長として招聘されました。暁烏敏（一八七七～一九五四）たちが清沢の住居に集い、浩浩洞（こうとうどう）が結成され、精神主義運動を展開しました。浩浩洞同人の主張は、機関誌『精神界』に掲載され、同時代の宗教思想界に少なからず影響を与えました。

実は、私は、小学生時分から、自宅のお勤めで『絶対他力の大道』と題した清沢の語録の折本を読誦していました。その語録の冒頭に、この言葉があります。金沢市内の大谷派寺院に生まれた父が、その信心の歩みのなか、こうしたお勤めとの縁があつたようです。長男でありながらも寺を離れた父は、家長として真宗の教えを大切に生きた人でした。

父が勤務する高校に通った私は、家と地元から逃れたい一心で、地方の大学へ進学し、偶然、日本思想史学を専攻することに。とは言え、小さな研究室の書棚に『清沢満之全集』はありませんでした。バイト代の時給は四五〇円。時代はバブルでも、田舎の学生にその実感はなく、少し冷めた目で世の中を見ていたよ

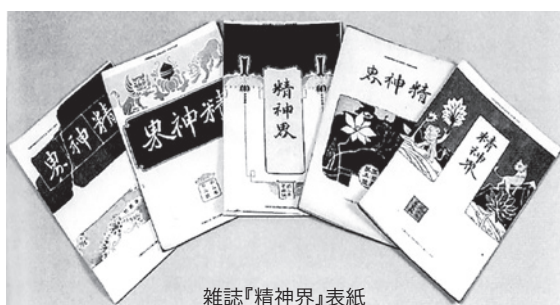
うに思います。モノは豊かになった反面、何かを捨ててきたのではないか。例えば、私が生活のなかで触れてきた「宗教」「仏教」は、不要なのか。生い立ちのためか、そんな疑問を拭いきれずに大谷大学大学院へと進学した私は、研究対象として、清沢満之と出会い直すこととなりました。当時は、東西ドイツが統一し、ソ連が崩壊した後で、歴史は発展するという見方は崩れ、学界の研究視座の問い直しにも触発されながら、父が買い求めてあつた『精神界』（復刻版）を読むことにしたのでした。

私生活では、大学院在学中に女子高で講師をし、満期退学の翌年に結婚、数年後に長男を授かりました。ルーズソックスの女子高生との意志疎通に苦勞し、日々の仕事と子育てのなかで妻とぶつかるたび、それまで抱いてきた「当たり前」の女性観・家族観が、溶けて無くなるような感覚を抱きました。

当時の思想史研究では女性史研究が盛んで、研究会でも近代家族が注目を集めていました。牟田和恵（むたかずえ）『戦略としての家族』（一九九六）の、近代日本の女性・家族像は、都合良く歴史的に創出されたという見方に刺激された私は、近代真宗の場合について考える手がかりを探すべく、『精神界』を紐解きました。目にと

まったのは、『精神界』のとある号の巻末広告欄の「仏教主義婦人雑誌『家庭』という見出しでした。発行所も『精神界』の発行兼編集人と同じである号もあり、また『精神界』八号には、「我等同志の諸兄、多くこれに関係せらる」との紹介文もありました。『精神界』と大いに関係がありそうなこの『家庭』とは、いったいどんな雑誌なのか。気になった私は、早速、大谷大学図書館に収蔵されている同誌を手にとってみたのでした。

（次号につづく）



雑誌『精神界』表紙
（『清沢満之全集』第6巻（岩波書店）より抜粋）

特集 本の紹介コーナー



出版部会 因伯組 萬福寺 藤野 顕生



◆風の谷のナウシカ (著者：宮崎駿 出版社：株式会社徳間書店)

このたび、教区だよりにて不定期で「本の紹介」コーナーが始まりました。第1回は、スタジオジブリの名作『もののけ姫』や『千と千尋の神隠し』などで知られる宮崎駿氏の『風の谷のナウシカ』をご紹介します。テレビで何度も放送されている映画版をご覧になった方も多いと思いますが、今回取り上げるのは、その原作となった漫画版です。実はこの漫画、映画よりもずっと前から連載が始まっていて、映画の公開後もしばらく連載が続いていたんです。全7巻にわたるこの作品は、映画では描ききれなかった壮大な物語や深いテーマがぎっしり詰まっています。

舞台は、科学文明が極限まで発達した末に「火の七日間」と呼ばれる大戦争で崩壊し、有毒な瘴氣を放つ「腐海」と

巨大な「蟲」に覆われた世界。人類はそのわずかに残された土地で、自然の脅威におびえながら細々と暮らしています。

映画では、ナウシカの住む風の谷と、侵略者トルメキア軍との対立が「善と悪」「味方と敵」という単純な構図で描かれています。漫画版では「土鬼」という第三の勢力も登場し、物語がより複雑になります。それぞれの国や登場人物には、それぞれの「正義」や「信念」があつて、一概に善悪では割り切れないのがこの作品の魅力でもあります。たとえば、映画では冷酷な悪役のように描かれているトルメキア軍の指揮官クシャナも、漫画では、苦しみや葛藤を抱えたとても人間らしいキャラクターとして丁寧に描かれています。そして何より、漫画版の魅力はそ

の「深さ」にあると思います。映画のテーマは「自然との共存」といったメッセージが分かりやすく伝わってきますが、しかし「共存」という言葉の背後には「人間は自然の外なる存在である」という前提があります。原作では、物語が進むにつれ自然と人工との境界線が曖昧になり、「そもそも自然とは何か」「人間とは何か」という根本的な問いにまで話が深まっています。

物語の終盤、ナウシカは「いのちは闇の中のまたたく光だ」と語ります。希望や理想が正解ではなく、迷いながらも命と向き合っていくこと——そんな姿勢がこの物語の核心にあるのかもしれない。また、物語のラストには、映画のような「わかりやすい救い」は用意されていません。読者の胸に消化しきれない余韻が残るかもしれません。「ナウシカの選択は正しかったのか?」「自分だったらどうするか?」といった問いが、きつと心の中に生まれるはずです。映画版が好きだった方も、そうでない方も、ぜひ漫画版を読んでみてください。映画とは異なる視点やテーマに触れながら、ナウシカの世界をより一層味わうことができるはずです。



特集

部落差別問題に学ぶ同朋協議会 公開現地研修会

京あまべ紀行

今年3月4日に、部落差別問題に学ぶ同朋協議会主催による公開現地研修会が京都市東山いきいき市民活動センターやその周辺にて行われました。この研修会は「京あまべの歴史に学ぶ」をテーマとし、安田茂樹先生に講義を、木下松二先生に概説とフィールドワークを行っていただきました。

まず最初に、東三条出身である木下先生による概説があり、ご自身の経験も交えた話をされました。その話の中では、子どもの頃は誰にも教えてもらわなかったが、自分たちの先祖は庭師として寺社の造園を行ったり、京都や近江など他の地域の被差別部落をまとめる役を担う者がいたことなどを教わり、差別を受けているけれども、「京あまべ」に誇りをもっていることを話されました。あまべ村が四条にあった頃の様子が『洛中洛外図屏風』に描かれていることもスライドを使って説明され、造園のことも含め、

長浜第24組 妙覺寺 藤直子



歴史の教科書に出てくる存在の子孫の方の話を聞いたことは感慨深かったです。

次に安田先生の講義があり、スライドや配布資料を元に京あまべの成り立ちから現在までの歴史や、差別に対する闘いの話を行っていただきました。四条から東三条への強制移転に始まり、移転後には隣接する地に「非人」の人々を集めた地域がつくられ、お互いを嫌悪するように仕向けられるなど、現在の再開発も含め、時代時代の為政者による施策の話は大変勉強になりました。

フィールドワークでは、村を囲っていた塀の遺構や東三条の建築物、圓光寺（浄土真宗本願寺派）境内にある茶室「任有の席」を案内していただきました。実際に塀の範囲を案内していただくと敷地の狭さを実感し、驚かされました。※京あまべ 中世に牛馬の甲いや警察業務などを生業とした人々のこと。村は京都でもっとも古い河原者の村であり、豊臣秀吉によって四条河原から東三条に移転させられた。

特集

教区仏教青年会 親鸞ウォーク2025

親鸞ウォークに参加して

長浜第14組 満立寺 黒田美央子



長浜を歩きませんか、とある方からお声がけいただき、今回の親鸞ウォークに初めて参加させていただきました。私は長浜のお寺に嫁いで三十年近くになります。普段は車に乗って移動する生活で、滅多に電車に乗ることはないのですが、長浜駅から北へ一駅、虎姫駅まで電車で揺られました。見慣れているはずの景色も、電車の窓から眺めるとなんだか新鮮な気分です。

虎姫駅に集合、いつもお参りさせていただく五村別院、長浜別院はじめ教如上人にゆかりのあるお寺等巡るコースです。参加された皆さんと一緒に細い路地を歩き、それぞれのお寺でお話を聞かせていただき、案内をしていただいたことで、なんとなく知っているつもりでいたことにも改めて思いを深めることができたように思います。計り知れない混乱の中で、教如上人を慕い、必死の思いで真宗の教えを今の時代の私たちにまで

伝えてくださっていたいしえの人々の努力に思いを馳せずにはいられませんでした。座ってお話を聞くだけでは得られない学びをいただいたと感謝しています。長浜の黒壁スクエアで皆さんといただいたおしゃれなランチもとても美味しかったです。企画、準備等お世話になったスタッフの方々に深く感謝いたします。また来年もぜひ楽しみにしております。ありがとうございました。



五村別院

今、この時に、

親鸞聖人に会う



南無阿弥陀仏の生活

小松大聖寺教区第1組 興宗寺
但馬末利花 たじま まりか こうしゅうじ

学生時代、一週間ほど意識が戻らない経験をしました。

今思えば、その後のいのちがつながったことはまさに「たまたまのご縁」ですが、その当時は本当に「生きるか死ぬか」の瀬戸際だったと思います。我が身のことでありながら、私にはどうにもならない一週間でした。

ぼんやりと、暗い中にありながら名前を答える自分の声が耳に入り、うっすらと目を開けた時の明るく照らされた世界は、睡眠から目が覚めた時とは違

う感覚でした。

「ああ、わたしは生きてるんだ」。それだけを感じて、再び目を閉じたことを覚えています。

新学期が始まった時に、ある先生のお部屋へ邪魔し、その時のことをお話すると、先生は一言。

「君はこれから、ただ南無阿弥陀仏の生活やな」

その時は先生のおっしゃる意味も分からず、「はあ……そうですね……」と言葉を濁して話を終えましたが、その一言が私の中でぐるぐると巡っていました。

数年後、別の分野の先生とお話をさせていたでいる折、その先生がふと「南無阿弥陀仏って、何だろうね」とおたずねになりました。その時にとった私の行動は、「それはですね……」といって、『真宗聖典』をペラペラとめくるとでした。しかし先生は「ああ、ごめん。そういうことではなくてね」と優しく諭して下さいました。私は、『真宗聖典』の中にあるお言葉を使って「説明」しようとしていました。しかし、先生がおたずねになったのは、あなたにとって南無阿弥陀仏のおこころは何ですかという私への問いかけだったのです。ここでも私は「そうですね……」と言葉を濁して、

結局その後は別の話題へ移りました。

このお二人の先生からいただいたのはいずれも、「お念仏申す我が身を生きているか」という問いかけであったように思います。当時はそこがはつきりしていないまま、のらりくらりと生きていました。それでも、お二人の先生からいただいたお言葉は、忘れることなく何度でも自分の中に問い返されて今に至ります。

私たちはどこまでも自分がかわいくて、自分に都合の良い生活を求めて生きています。理想とする「私」ばかりを追いかけて、そのままの私自身を引き寄せられないでいます。

そんな我が身であるからこそ、私にはただ南無阿弥陀仏の生活しか無いんだな、ということをも最近になってようやく感じることであります。

竊かに以みれば、難思の弘誓は難度
海を度する大船、無碍の光明は無
明の闇を破する恵日なり。

『教行信証』の総序の文は、まさに親鸞聖人の宗教観が凝縮されたお言葉であります。

様々な苦勞の中から、私一人が確かに救われる身であることをあきらか

にしてください、その深い言葉の中にこそ、今、私はここに生きていることを感じるのです。

一週間、意識を手放した中から開かれた病室の光は、私にそのいのちを生きよと照らして下さいました励ましの光であったのかもしれないと、今となつては思うことであります。



花まつり子ども大会

長浜第18組 了西寺
りようさいじ
いごまさちこ

生駒祥子



今年も五月三日に長浜特区恒例の花まつり子ども大会が参加者とスタッフ総勢三百七十人で開催されました。

私自身は八年前から携わらせていただき、その間コロナ禍での中止、Zoomを通したオンライン開催、大通寺境内だけの半日開催と状況により変遷がありました。以前のように黒壁商店街の中を白象を引いて歩く市中行進を伴う一日開催に戻れたのは昨年のことです。

一昨年の半日開催時、地元の方の「行進せんのか？またしてほしいなあ。」という呟きに、花まつりがお念仏の土徳に支えられて地域に根付いていることを感じました。

今後教えと子ども達をつなぐこの伝統が

大切に守られ、

新教区で更なる

広がりをもって

受け継がれてい

く未来を願って

おります。



第23回

春の子ども本山参り

東京教区 東京2組 常福寺
じょうふくじ
はつた めぐみ

八田恵



去る3月28日、春の子ども本山参りにスタッ

フとして参加させていただきました。今年は

「みんなで西本願寺を探検しよう！」と題し

て、1日で東西本願寺を参拝しました。午前

はいつものように東本願寺の両堂に参拝し、同

朋会館でみんなでお昼ごはん。午後からは西本

願寺へ。私自身立ち寄っ

たことはあるものの、職

員さんの説明を聞きなが

らじつくりと建物内を見

て回るのは初めてで、初

めての場所にはしゃぐ様

子の子どもたちに負けず

劣らず、わくわくしなが

ら参拝しました。

参拝のあとは教務所の講堂で絵日記を描い

て、発表をしました。東西本願寺の違い、西

本願寺で見つけた面白いもの、今日出会ったお

友だちとのこと、子どもたちもスタッフもそ

れぞれに充実した時間が過ごせたようでした。

ひとひと
男と女の平等って、なに？

私が生きてるってこと

出版部会 近江第2組 三因寺
さんいんじ
たかだ まさき

ある日のこと。男が油断し

てドアを開放したまま用を足

しているとき……後から殺気？

が……足音と共に「お母さん

大変！お父さんがまた立った

まましてる！」と叫ぶ声。

「他のことも一緒や。なんで

何度も言ってるのに同じこと繰

り返すのかな」私もそう思う

「私モソウ思います」

三人の女から厳しく糾弾さ

れ、意気消沈しながら、男は

思う。「なんでいつもこんなこ

まかいことで責められなあか

んのやろ。もっとおおらかに

生きてほしいのに……」

『君の臍臓をたべたい』って

読みました？」男の愚痴を聞

きながら、ある女が言う。「な

んやそれ？ホラー小説か？」

違った。余命わずかと宣告

された主人公の少女は言う。

男と女の平等って、なに？

私が生きてるってこと

出版部会 近江第2組 三因寺
さんいんじ
たかだ まさき

誰かを認める、誰かを好

きになる、誰かを嫌にな

る、誰かと一緒にいて楽し

い、誰かと一緒にいたら鬱

陶しい、誰かと手を繋ぐ、

誰かとハグをする、誰かと

すれ違う。それが生きる。

自分たつた人じゃ、自分が

いるって分からない。誰か

を好きなのに誰かを嫌い

な私、誰かと一緒にいて楽

しいのに誰かと一緒にいて

鬱陶しいと思う私、そう

いう人と私の関係が、他

の人じゃない、私が生きて

るってことだと思ふ。

『君の臍臓を食べたい』（双葉社
住野よる）

はるか昔の独身時代、「だれ

かと共に生きたい」と願ったこ

とを男は思い出す。だから、「明

日も女たちと共に生きよう」

と男は今日も思うのだ。

京都教区 8月の教区事業

19日（火）～20日（水） 第64回 児童大会

ピラデスト今津（滋賀県高島市）

21日（木）～22日（金） 教師試験検定準備学習会

教区会館 2階 大講堂

京都教区 8月の教区諸会議

4日（月） 13:30～16:30 教化本部 企画室 会議

教区会館 2階 大講堂

5日（火） 13:00～15:00 教化本部 青少幼年部会 会議

Web 会議（Zoom）

22日（金） 13:30～16:30 教化本部 出版部会 編集会議

Web 会議（Zoom）

教務所からのお知らせ

得度受式者

二〇二五年六月二十四日

- ・敦賀組 高福寺 平澤 光紀
- ・山城第二組 大泉寺 松浦 斗希雄
- ・近江第二十六組 最勝寺 山田 惟明
- ・近江第二十六組 法泉寺 吉武 優

住職任命者

二〇二五年六月二十八日

- ・長浜十八組 極樂寺 後藤 洋明
- ・長浜第二十三組 速満寺 藤澤 賢祐
- ・山城第四組 光久寺 徳田 潤子

敬弔

『教区だより』七月号の敬弔の死亡年月日に誤植がございましたので深くお詫び申し上げますとともに、左記のとおり訂正させていただきます。

- ・長浜第十二組 法雲寺 坊守 四木 美恵子 九十八歳
二〇二五年五月二〇日
- ・敦賀組 高福寺 坊守 竹本 よう子 八十四歳
二〇二四年十二月十五日

「令和六年能登半島地震」

災害に関する救援金について（報告）

二〇二四年一月から勧募を開始し、六月二十三日現在で34,589,237円の救援金のご協力をいただいておりますことを報告いたします（旧長浜教区分も含む）

教務所職員の人事異動について

【二〇二五年六月三十日付】

- ・高田 早苗
京都教務所非常勤教区雇員を退職。

長浜教務支所の現金取扱日について

長浜教務支所の現金取り扱い日は、左記のとおりです。

- 8月4日（月） 8月18日（月）
- 9月8日（月） 9月22日（月）
- 10月6日（月）
- 11月17日（月）
- 12月8日（月） 12月22日（月）

教務所・教務支所の夏期休暇について

八月十二日（火）から八月十五日（金）までを夏期休暇といたします。緊急の場合は、教務所携帯電話（080-6121-0737）までご連絡ください。

ただし、職員は休暇中のため、すぐに対応できない場合があります。また、災害や敬弔等の緊急の案件のみとし、願事等の問い合わせは、休暇前または休暇後をお願いします。

教務所・教務支所の開所時間について

宗務役員の働きやすさ改革に伴い、教務所及び教務支所の来客の受付時間を午前九時から午後四時三十分までとし、午後四時三十分から午後五時三十分までを事務整理時間としております。午後四時三十分には教務所及び教務支所を閉所いたしますので、ご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年（二〇二四年）一月一日に発生した能登半島地震から一年半余り経過いたしました。これまで、教区内のみならずから被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS（X）でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにとぞ趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X（旧ツイッター）



京都教区別院 8 月の行事予定

5日(火)	6:00～7:00	五村 暁天講座 法話 三山 岳 師 (長浜 第13組 真勝寺)	五村別院
5日(火)	9:00～11:30	五村 夏中 谷 大輔 師 (近江 第2組 良覺寺)	五村別院
5日(火)	12:00～13:00	赤野井 定例法要 (教如上人御命日速夜) 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
6日(水)	6:00～7:00	五村 暁天講座 法話 古松 了真 師 (長浜 第23組 頓念寺)	五村別院
6日(水)	9:00～11:30	五村 夏中 富田 正孝 師 (長浜 第13組 聴信寺)	五村別院
7日(木)	6:00～7:00	五村 暁天講座 法話 曾我 朋子 師 (長浜 第12組 等倫寺)	五村別院
7日(木)	9:00～11:30	五村 夏中 興法 慶実 師 (敦賀組隆法寺)	五村別院
8日(金)	6:00～7:00	五村 暁天講座 法話 藤森 了英 師 (長浜 第23組 真西寺)	五村別院
8日(金)	9:00～11:50	五村 夏中兼師徳奉讃法要 法話 佐々本 尚 師 (恒井 教区 専光寺)	五村別院
13日(水)	10:00～12:00	岡崎 孟蘭盆会 法話 上本 和樹 師 (大阪 教区 安樂寺)	岡崎別院
15日(金)	8:00～9:00	山科 孟蘭盆会	山科別院
15日(金)	12:00～13:00	赤野井 孟蘭盆会法要 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
16日(土)	10:00～10:45	大津 孟蘭盆会	大津別院
23日(土)	10:00～11:30	岡崎 三日講「歎異抄を読む」法話 近藤 悠 師 (別院輪番)	岡崎別院
27日(水)	12:00～13:00	赤野井 定例法要 (宗祖親鸞聖人御命日速夜) 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
27日(水)	14:00～16:00	伏見 ご命日のつどい 法話 辻本隆昭 師 (浄土真宗 本願寺派 強縁寺)	伏見別院
28日(木)	14:00～16:00	大津 同朋の会 聞法会 法話 武田 法生 師 (近江 第26組 西廣寺)	大津別院

京都教区 公式SNSあります

公式 SNS で更新情報などを配信しています。
1,000 力寺を超える寺院・教会がある京都
教区ですが、登録者数はまだまだ少ないで
す！ ぜひご登録をお願いします！



LINE公式アカウント
2025年7月1日現在
登録者数203名
LINE ID @441foywe



Facebook、Instagram
もちろんあります！



編集後記

5月3日に開催された、長浜別院大通寺での花まつり子ども大会に参加しました。これまで5年ほどスタッフをさせていたいただいておりましたが、今年は母亡き後およそ35年ぶりの自坊の日校引率での参加でした。母が引率してくれていた小学生時代、毎年花まつりがとても楽しみで、たくさん仲間と楽しい時間を過ごしたことは今でも忘れられない思い出です。お釈迦さまをご縁に毎年たくさんの子と大人が集まり、皆が等しく楽しむという花まつりは、いつまでも深く心に残る、子どもにも大人にとっても大切な教化だなと、今年も感じさせていただきました。(出版部会 伊藤 真希)

「教区だより」表紙写真大募集！！

本誌表紙写真を大募集いたします！
テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。詳しくは京都教務所までお待ちしています！



【表紙の写真】「親鸞ウォーク 2025」(仁科 洸/京都教区仏教青年会)

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第423号

真宗大谷派 京都教区 Web サイト <https://www.k-kyoku.net>

【発行人】宮戸弘(真宗大谷派京都教務所長) 【発行所】真宗大谷派京都教務所 【発行日】2025(令和7)年8月1日
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp

